

様式第 16 号

住民提案協働事業実績報告書

令和 8 年 3 月 31 日

提出先 熊取町長

実施者 所在地 熊取町五門西1-9-5

団体名 わりかし若い百姓の会

代表者名 鈴木 純

提案事業名	つなぐ、育む、熊取農業
提案の種類 (いずれかにし)	<input checked="" type="checkbox"/> 団体提案型 <input type="checkbox"/> 行政テーマ型 【テーマ名: _____】
提案タイプ	<input type="checkbox"/> 連携事業(_____) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 補助事業
事業内容 ※ 協働事業として実施内容を、より具体的に記入してください。(別紙可)	事業内容、報告書は別紙
事業実施期間	(着手) 令和 7 年 4 月 1 日 ~ (完了) 令和 8 年 3 月 31 日
事業実施場所	熊取町各所
事業費総額	276,762 円
協働した担当課	産業振興課
事業の成果	今年度から、熊取町の協力でキターネホール軒下での直売会、また役場入口での常設直売所も開設することができ、熊取町産の野菜を手にとっていただける環境が増えた。
今後の方向性 ※ 本年度の活動を踏まえ、今後の方針や改善点等を記入してください。	令和 8 年度は協働事業最終年度となるので、熊取町での農業が持続可能であるように取り組みを進めていきたい。また、ふるさと納税の魅力ある返礼品づくりにも、担当課と協力し取り組みたい。
備考	

※ 添付書類

- (1) 住民提案協働事業収支決算書様式第 16 号
- (2) 町 HP 公開用資料等 (①活動の状況を写した写真 2, 3 枚、②事業の実施に要したパンフ等 (作成した場合)、③その他、協働事業の事業報告に必要と思われる書類)

住民提案協働事業収支決算書

団体名 わりかし若い百姓の会

提案事業名 つなく、育む、熊取農業

1 収入 (単位:円)

項目	金額	内容、算出根拠等
団体資金	11,254 円	
体験会参加費	81,000 円	田植え 500 円×45名 カレー 500 円×47名 稲刈り 1,000 円×35名
住民提案協働事業補助金	184,508 円	団体提案型: 支出合計額×2/3 以内 (上限額 30 万円) 行政テーマ型: 支出合計額×10/10 以内
合計	276,762 円	

2 支出 (単位:円)

項目	金額	内容、算出根拠等
印刷製本費	62,287 円	のぼり旗、名刺、チラシ、ステッカー
原材料費	83,695 円	体験会おにぎり用お米、苗、カレー材料
備品購入費	71,442 円	直売会用テーブル、袋、体験会ホース
保険料	7,435 円	カレーイベント保険料
維持管理費	24,298 円	肥料、田んぼ賃借料、農薬
事務管理費	27,605 円	支出合計額×10%以内
合計	276,762 円	

くまベジ直売会 R7.4.17 ひみつ基地マルシェ共催

晴天に恵まれ、多くの方が直売会に訪れてくれた。

新玉ねぎ、ふき、春キャベツに加えて、ハウス水ナスも出品し、たくさんの方にご購入いただきました。

共催の秘密基地マルシェにも多数の来客があり、駐車場問題が継続的な開催のネックになる。



くまベジ直売会 R7.6.1 オリナスジカン共催

中家住宅で開催されたオリナスジカン内で、直売会を開催した。
オリナスジカンへの来場者もあり、多くの方にくまベジをお届けできた。
普段は熊取町産の野菜を食べることのない方に買っていただいた。



田植え体験会 6月22日開催 報告書

令和7年6月22日に予定通り開催。参加人数も昨年より多い45人(子ども22人、高校生以上23人)となった。

初めて見るお米の苗に、興味津々の子どもや、泥の中に入りたくない子ども、余った苗を持ち帰り、家で育ててみたいと言う方など、多くの方に農業に触れていただくことができた。

お米の価格高騰が続く中で、この畑でどれくらいのお米が採れるのか?などの質問もあった。

以下は、体験会の様子



くまベジ直売会 R7.7.11 キテーネホール前

初めてキテーネホール前でくまベジ直売会をおこなった。

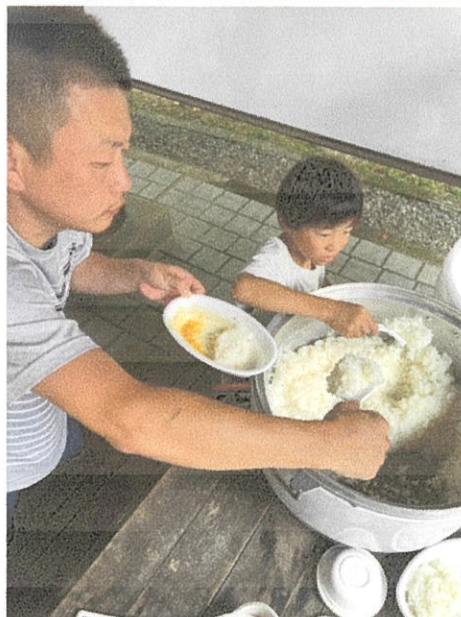
単独でのくまベジ直売会では、来客数(約200人)、販売額(約10万円)ともに過去最高であった。産業振興課、キテーネホールの管轄である学校教育課とも協議の上、定期的を開催させていただけることになった。



くまベジカレー 8月3日開催 報告書

令和7年8月3日に開催。参加者47名、大阪体育大学野外活動部、他 合計72名
熊取町産野菜とお米を使ったカレー作りは、大阪体育大学野外活動部がリーダーとなり、グループに分かれて行った。「マッチを擦る」体験は怖いながらも頑張っていた。

以下は、体験会の様子



稲刈り体験会 10月19日開催 報告書

令和7年10月19日に予定通り開催。参加人数は35人(子ども15人、高校生以上20人)インフルエンザ、コロナで参加できなくなった子が多くいたのが残念だった。

参加者の中で田植えに引き続き参加してくれた家族は3家族。家でもプランターでお米を育てている家族からの質問などもあった。

実際に休耕田を借りて、野菜を育ててみたい。農家になるにはどうすればいいかなど、わりかし若い百姓の会員への個別相談などもあり、少しずつ農業への関心が増しているように感じた。

以下は、体験会の様子

